

回想文

迷惑な隣人?!

塩田公子

毎度ばかばかしいお話を・・・で始まるのは落語ですが、「ばかばかしい」などとは畏れ多い高橋先生の「思い出の記」を、「ばかばかしい内容」にならないよう、心して勤めさせていただきます。

おそらく、私が高橋先生のお隣に住まっているゆえに回想文を書かせていただけることを、心から有り難く思います。純粹に「先生」と呼びする正当な理由が私には有りません。先生が名古屋大学に赴任なさったときはすでに現在の勤務校に勤めておりましたので。しかしその後今日に至るまで、「古代文学研究会」で御世話になり、隣人となつてからも二十年近くたちました。

もうかれこれ三十五年以上前になりますが、大学院にいる友人から「かっこいい！」との噂を聞き、ひと目御尊顔を！と母校に出向いて、落語「付き馬」の主人公のごとく、しばし呆然と佇んでしまいました。七月の槍で「ぼんやり」つてやつです。そのころはよく黒のタート

ルネックのセーターをお召しでしたが、すこし浅黒く精悍な風貌と、眼鏡の奥で光る厳しそうな目つきに魅了されました。それが今や、なんと畏れ多くも、我が家族たちは「隣のセンセ」「隣のおじさん」「お茶の水博士」などと、限らない親しみをこめて呼び、髪はくしゃくしゃ、ノーメークの私は、生ゴミの袋をかかえ、ドアの外で、「おはよう」(ほとんど「ございます」はつかない!)と、「まるん」のようにふくふくと丸いお顔をなさっている先生と、出くわす日々を過ごしております。

そうそう、そういえば「まるん」で話が飛びますが、ご存じですよ、先生の愛猫のことは、『大搦源氏物語』の主人公の名を戴いた御猫も、いまや准太上天皇になつたような風貌でおります。私の娘が猫が好きで、先生のお留守は夏休み、冬休みが多いので、娘が名古屋に帰省中に喜んで猫の世話をやっております。ここだけの話ですがね、(誰にも言っちゃいけませんよ)、私は実は動物

一般、苦手なんですわね……。まあ、娘から聞いたところによると、私が世話にいくときには、姿をまったく見せない猫さんが、娘が行くと出てくるらしいのです、よく知っているのですわね。あ！こんなことを言ったからといって、私が猫を虐めたりはしてませんよ、誓って言いますが。

まあ普通こういう場合、先生から受けた学恩を語るのが筋でしょうが、つまらない話から始めてしまい、まことに恐縮でした。

先生の隣に住まっているおかげで、先生を通じて多くの研究者の方々を知りました。名古屋から一步も出られなかった私が、先生のみならず、東京や、京都、大阪、ほとんど日本中の様々な研究者の方々の学恩を受けながら、それが現在も自分の研究に活かせていないことだけが、これは心底恥ずかしく思っております。

また、先生のご縁で、日本でも多喜二研究で著名な、シカゴ大学のノーマ・フィールドさんからも家族そろって多くの感動を頂きました。ノーマさんが、夫が熱望していたキューバ行きの中をおしてくださった事は終生忘れることができません。

また先生はかつて、ブラハのカルレル大学に教えに行かれましたが、その後、先生を慕って日本に留学してきた、

落語の好きな女子学生を、私に引き合わせてくださいました。現在は東大に留学中の彼女が、今、お盆で私の家に帰ってきて、この原稿を書いている隣で落語を聞いています。娘がもう一人出来たようなうれしい気持ちです。彼女の名前は Brandeisova Silvie。この秋国際交流基金の助成をうけてブラハ、ブダペスト、パリの3都市で、柳家さん喬師匠らを招き落語会を開くための準備に努力、奔走しています。

こんなふうには、日本はもちろん、世界に広がった先生の御研究から、私が受けた御恩は、数えきれないぐらいです。「Give」は今のところ皆無です。そりゃあ、人との付き合いは「Give and Take」が理想でしょう。でもね、結婚だって、『君を幸せにするよ！』などと言う男など、私は信用しませんね。『君と結婚したら、君の方はわからないけど、僕は絶対幸せだよ！』というほうが素直じゃないですか！

だから、私は、先生のお隣で『幸せ』です！しかし、私とて、御世話になりっぱなしなどとそんな不義理なことはいたしませんよ。

来たる将来、いやいやまだまだずつと先ですが、bean庵の窓から「塩田さくん、僕まだ夕ご飯食べてないよ」

と首を出した先生に、バラ庭の手入れをしながら、「センセ、さっき食べたじゃないですか！」などと言える日が来て、心から感謝の気持ちで恩返しができる日を心待ちにしております。

今、先生は⁰⁰⁰ 庵で充実した幸せそうな日常を送っておられます。みなさんも、⁰⁰⁰ 庵をお尋ねの節は、是非私のところにも、「元氣かい！って寄って！寄って！そんなんぞ礼するから、寄って！」・・・あ、これは「貧乏神」の脳天気な主人公のセリフでしたね。

本当に最後まで、「ばかばかしいお話」で恐縮でした。「どちらが迷惑な隣人なのだ？」とつっこみが入らないうちに、このへんで切り上げさせていただきます。